

子ども虐待に関する調査から考える子どもにやさしい社会 —大学生による大学生を対象とした調査—

公立大学法人長野大学 社会福祉学部4年

十見優歩 齊藤大晃 佐藤純華 嶋津裕子
濱田乙希 福嶋朋果 安江凜 久保田朝香

発表者に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などありません。

研究概要

虐待予防をテーマに取り組むゼミ活動の中で、小林登氏のいう「子どもにやさしい社会」の実現が重要だと学ぶ。

これから起こりうる虐待を予防するために、次の子育て世代である大学生の考えや虐待に関する理解度を調査する。

次世代が求める子育てしやすい社会を追求し、「子どもにやさしい社会」の実現のために必要な支援策の提案を行う。

方法

【調査対象者】 長野大学に在学する学生

【質問項目】 児童虐待に関する24項目

【調査協力】 長野県庁(企画振興部 広報・共創推進課、

【手続き】

【倫理的配慮】

長野大学倫理審査委員会の承認を得て実施

無記名式の質問紙(google formのQRコード)を配布して回答を求めた。

長野大学倫理審査委員会の承認を得て実施

県民文化部 こども若者局こども・家庭課)、うえだみなみ乳児院

結果

全273回答中、有効データ246回答。

・男性91回答(37%)、女性148回答(60%)、その他3回答(1%)、答えたくない4回答(2%)
・1年生101回答(41%)、2年生74回答(30%)、3年生40回答(16%)、4年生31回答(13%)

・社会福祉学部118回答(48%)、企業情報学部67回答(27%)、環境ツーリズム学部61回答(25%)

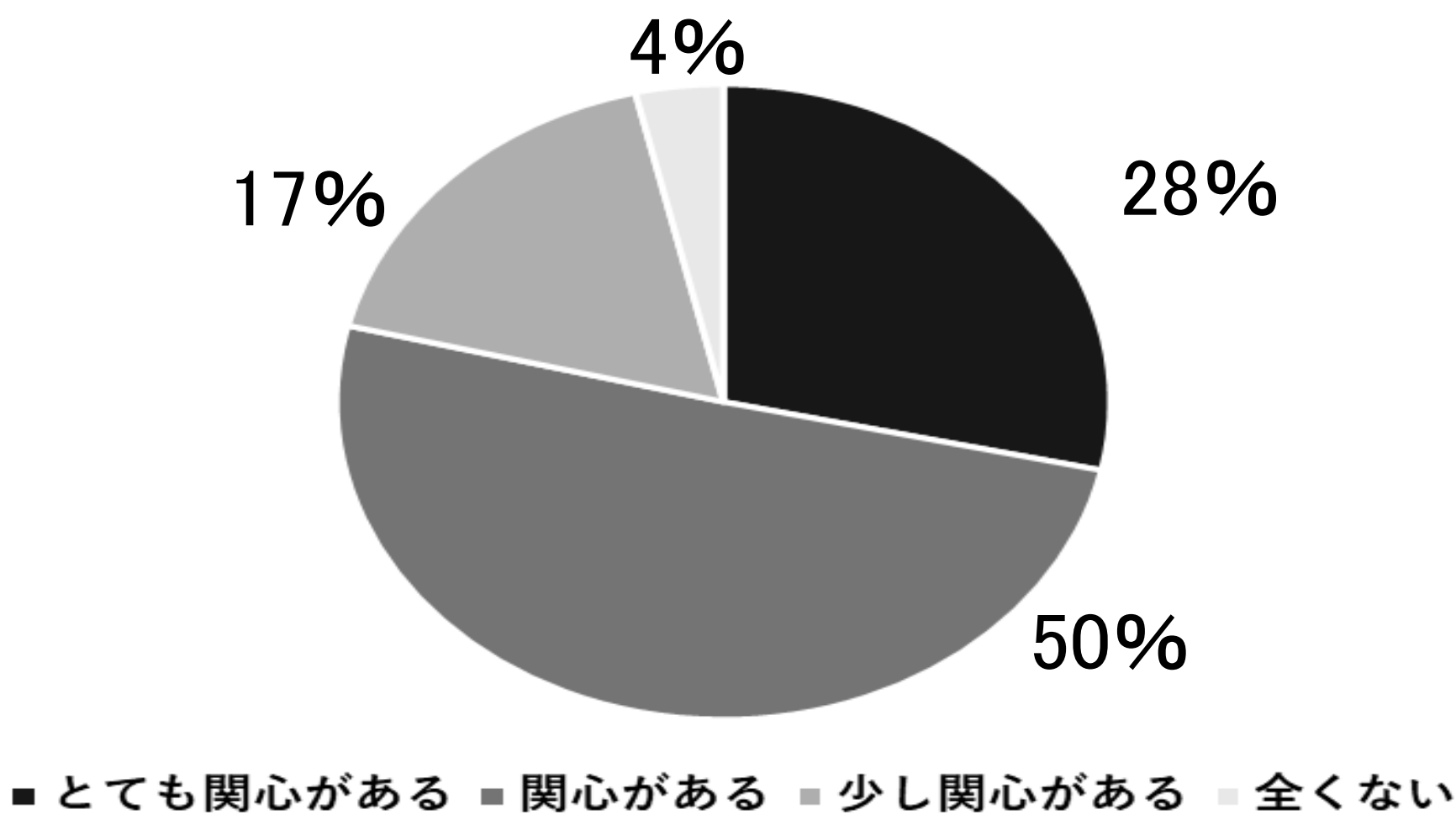


表1) 虐待に関心があるか

*大学生の78%が児童虐待に関心があると言える。

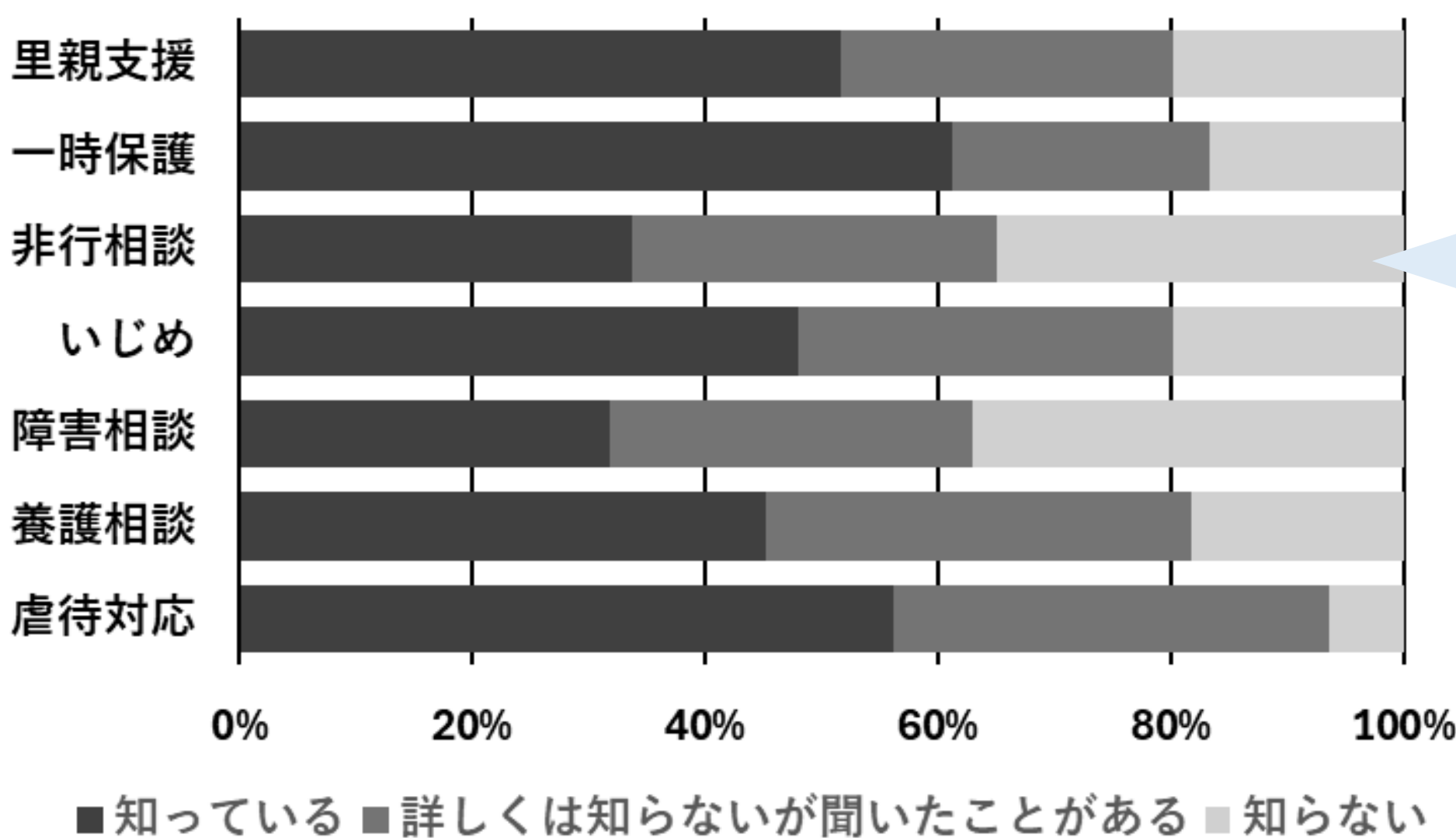


表3) 児童相談所の具体的な機能を知っているか

児童相談所の機能については認知度が低い。

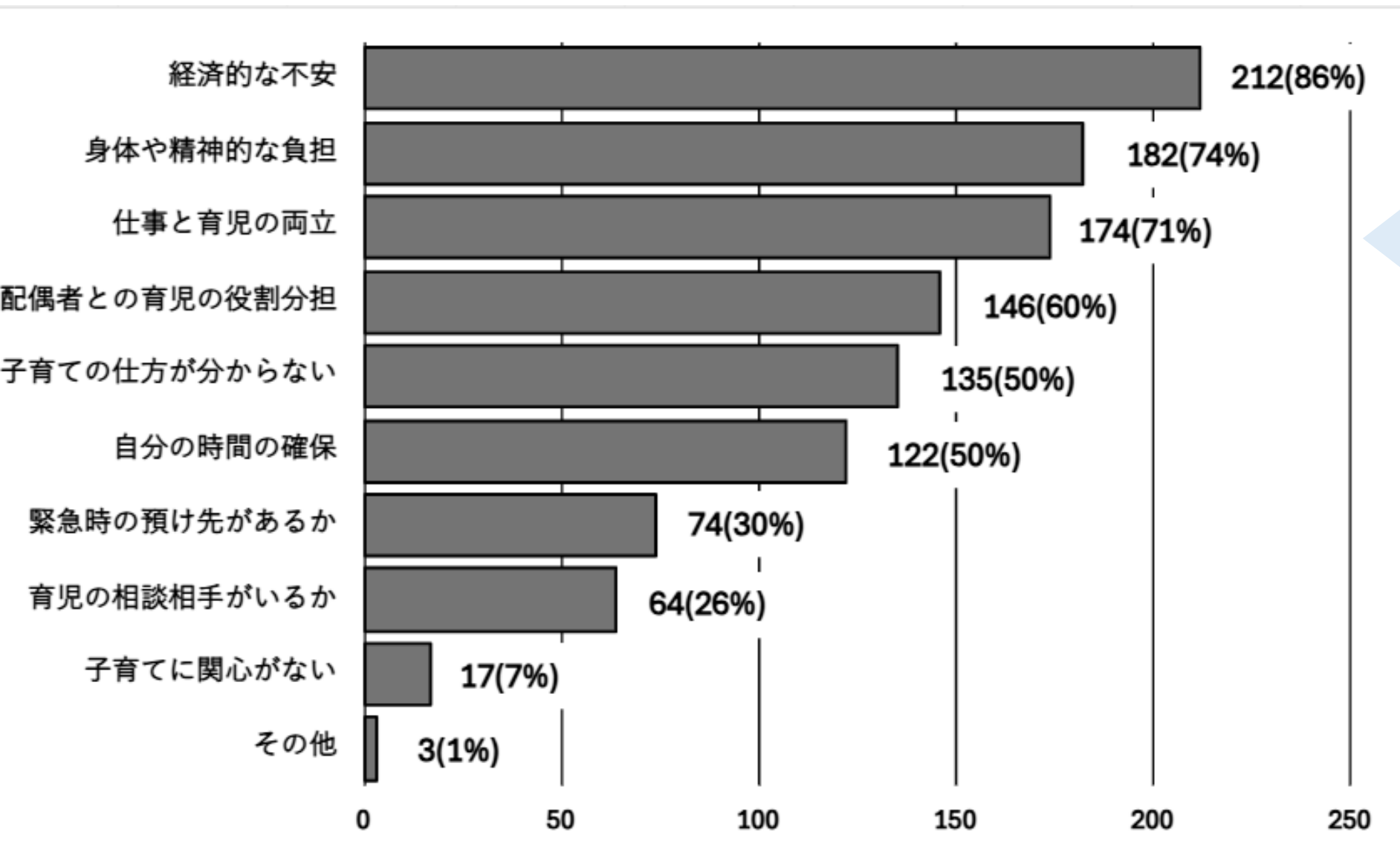


表2) どのような子育ての不安があるか

*大学生が子育てにおける不安で1番多いのは経済的な不安である。次いで、身体や精神的な負担、仕事と育児の両立が多い。

*大学生は本学の学生を意味する

【自由記述 回答例】

○すぐに子どもを預けられる場所を提供するサービス、経済面の援助、親が1人にならないようなサービス。
○子育て支援、金銭的にであったり、相談しやすい環境づくりが必要だと思います。

大学生が求めるものの大半が既に存在しているため、周知が足りず、結果的に支援が無いと捉えられていることが分かった。

考察

次世代の親は、虐待や子育てに対する適切な知識や現在アクセスのある社会資源が少ない。これは、子育て自体が身近な話でないためイメージできていないことや、虐待の予防教育が定着していないことなどが要因となっている。これにより、子育てにおいて社会的孤立に至り、子どもの健全な発達を阻害する可能性が示唆された。

次世代の親の孤立を防ぎ、受援力を高めるために、世代に合わせたアプローチ方法を検討した。その結果、社会が大学生に対して、子ども虐待の正しい知識を得るためのアクセスのしやすい環境を提供することが、子どもにやさしい社会を構築する手段であると考えた。そこで、既存の制度を周知するための広報活動と、虐待予防のための福祉教育が有効であると判断した。これらを用いて、親になる前から適切な知識を得ることは、子育てに対する不安の払拭にも繋がると推測する。

制度を周知するための広報活動

乳児期

幼児期
初期

幼児期
後期

学童期

青年期
(大学生)

成人期

【広報活動をする上での課題】

現代の若者は、興味のあるコンテンツを選択する傾向にある。

→関心のある人しか制度を知る機会がない

【提案】

①誰の目にも止まる場所に掲示

→大学内にポスターを掲示する

ポスター内容は虐待の要因となり得る、DV、予期せぬ妊娠、社会的孤立の3つに焦点を当てて作成した。

※プライバシーに関わるポスターは、配慮としてトイレの個室に貼った。

※妊娠相談先のうえだみなみ乳児院、長野県庁県民文化部に聞き取りをした。

②興味のあるコンテンツ先で周知

YouTubeやTikTokの案件、ショート動画

→若者がよく見るYouTuberやTikTokerに案件を依頼したり、関係機関

自らがショート動画を作成したりすることで周知に繋がるのではないかな。



大学生に向けた福祉教育

子ども虐待の予防のために大学生に向けた福祉教育が必要だと考える

【目的】 子どものもつ権利を知る

その権利が侵されている際に気づける

子どもの視点に立って考えられる

子も親も受援力を高められる

【今後の課題】

義務教育や高等学校での福祉教育について調査する。

参考文献

・小林登(1999). JaSPCAN 学術雑誌の発刊をお祝いして—新しい視点からの研究を—

・小林登(2008). いっしょに考える子ども虐待 明石書店

・小林美智子(2015). 子ども虐待の「支援」を考える

・大浦真一・松尾和弥・福井義一(2019). 被虐待経験は本当に共感性を低下させるのか?—愛着の内的作業モデルを媒介変数として—

・鈴木有美・木野和代(2008). 多次元共感性尺度(MES)の作成—自己志向・他者指向の弁別に焦点を当てて—

・鈴木有美・木野和代(2016). 多次元共感性尺度(MES)10項目短縮版の検討